

知らない怖い皮膚がん

「皮膚にもがんってあるのですか」と聞かれることがあります。主に正常な細胞が変化して異常な増殖をするようになり、放置すると他の臓器の働きも圧迫し、命を脅かすこともある『できもの』のことを、一般に『がん』や『悪性腫瘍』と呼びます。皮膚にもそのような怖い『できもの』ができることがあります。しかし、皮膚がんといっても種類が多く、放置すると他の臓器をゆっくり侵していくものから、速いスピードで命を脅かすものまでさまざまです。また、内臓のがんは進行していろいろな症状が出てからでないと気付にくいのに対して、皮膚にできた『できもの』の場合、自分や家族がその外見の変化に気付くことが多いのが特徴です。皮膚がんかそうでないかを診断するのは、皮膚の一部を採って調べなければ判断できないことがありますが、状況によっては、ダーモスコピーという拡大鏡で『できもの』を肉眼より詳しく観察して、良性で放置しても良いものか悪性で治療が必要なものかを判断できる場合があります。このダーモスコピー検査は特に『悪性黒色腫』という『ほくろ』と紛らわしい皮膚がんの発見に有効です。自分や家族に「こんなできものあったかな。最近急に大きくなったのでは」と思ったら、まずは近くの皮膚科専門医を受診してください。

平成25年12月

三浦 宏之